令和５年度　開成町立開成小学校学校だより　第１１号

開物成務

令和５年　１１月　１７日（金）発行　　校長　津田　千由美

直接体験を通しての学び

４年ぶりとなった全校一斉参加型の運動会が無事に終了しました。秋晴れの中、大きな混乱もなく開催できたこと、また、子どもたちの一生懸命な姿をご覧いただけたことに、教職員一同心よりお礼申しあげます。

さて、大きな行事で培った力を、今度は各学年で学習の方にシフトしていきます。

1年生

１１月６日（月）３・４時間め、クレシア（株）さんのご厚意により、敷地内でドングリ拾いをさせていただきました。袋いっぱいのドングリを抱え、「こんなにとれたよ！　100 こ、こえてるよ！」と大喜びで帰途につきました。

このドングリを使って、生活科の学習に創作活動を行い、いろいろな遊びを体験する予定です。ドングリに虫がわかないように、クレシアさんの方で事前にドングリを煮沸してくださっていると伺いました。感謝の気持ちをもちながら、過ぎ去った秋を十分に堪能したいと思います。

2年生

「ぎょうざのひみつを教えてくれてありがとうございました。こんど、おうちの人と食べに行きます。」

２年生は、生活科の学習で町探検に行きました。子どもたちから「行ってみたいところ」の希望を募ったところ、地域のお店や公共施設がたくさん挙がりました。お忙しい中、どの施設でも子どもたちを温かく迎えてくださり、多くの質問にも丁寧にお答えいただきました。

「開成町ってすてきだな」という思いとともに、いつまでも子どもたちの記憶に残ることでしょう。

3年生

３年生は、社会科の学習で農家の仕事について学んでいます。１１月 10 日（金）２・３校時には、PTA 会長宮上さんの畑を見学し、開成町のブランド品である弥一芋のなり方を見せていただきました。一つの種芋に 20 個以上の子芋をつけていることに驚き、体験活動を通して農家の方のご苦労や生産を高める工夫なども知ることができました。

生産者の思いを知ることで、日々の給食の味がまた一段とおいしく感じられることでしょう。生きた学びにつながっています。

4年生

４年生は、総合的な学習の時間に福祉について学んでいます。アイマスク体験に続き、先週は、高齢者体験をしました。今や５人に１人が高齢者という時代、高齢者の気持ちを理解することで思いやりや気遣い、助け合いの気持ちを育むことをねらいとしています。

開成町社会福祉協議会から高齢者疑似体験セットをお借りし、一人一人が身に着け、階段の上り下りを体験しました。

「手足が思うように動かせない」「周りが見えづらいので怖い」と言いながら、壁伝いにそろりそろりと歩いていました。

これらの体験を通して、障がいの有無にかかわらず相手の気持ちになって考えることの大切さや、人との関わり方を学んでいきます。

子どもの学びに向かう主体的な態度の育成に、「直接体験」にとても有効です。

コロナ禍ではインターネットやテレビ等を介しての「間接体験」が主流でしたが、子どもたちの成長にとって、やはり実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」が必要であることを実感しています。

5年生

11月15日（水）～16日（木）の２日間、県立足柄ふれあいの村へ林間学校に出かけました。寒空の中でしたが、5年生は元気に出発しました。昼前に到着し、ウォークラリー、野外炊事、キャンプファイヤー、ナイトウォークと活動が目白押しでしたが、予定通りに全ての活動を行うことができました。めあてでもある『協力』の成果です。

「初めて一晩おうちの人と離れるので、朝出かける時に泣いちゃったんだ」

とそうっと教えてくれた子どもがいました。

大なり小なりどの子にも不安はあったことでしょう。親から離れた２日間を体験し終えた子どもたちは、一回りたくましくなったように感じます。自立への第一歩を歩みだしました。

6年生

11月15日（水）、ゲストティーチャーに町議会の山本議長さんをお迎えしました。

以前、社会科の学習で開成町議会の見学と模擬議会の体験をさせていただきました。その際、時間の関係で子どもたちの質問に全て答えることができなかったため、山本議長さんに改めて学校へお越しいただきました。

議員になった理由や議員になってうれしかったことなどキャリアに関する質問もあり、今後の子どもたちの夢や希望につながる学びとなりました。

子どもと議長さんが、こうして実際に顔を合わせて対話できるということは、開成町の大きな魅力の一つです。

PTA 主催給食試食会開催

11月15日（水）、4年ぶりに給食試食会が実施されました。40名以上の申し込みがあり、保護者の皆様の関心の高さを感じました。終始和やかな雰囲気で会食していただき、心もおなかも満足していただけたのではないでしょうか。

計画運営に携わってくださったPTA役員の皆様、ありがとうございました。

わたしのひとりごと…

先日新聞にこんな記事を見つけました。「１匹で生きていくことを強いられた孤独アリは、体内に活性酸素がたまり、異常行動や寿命の短縮が起こる」というのです。アリにとっても、「ひとりぼっち」というのは命を削るほどのストレスになるという証です。

ふと思い出したことがあります。８００年ほど前のローマ帝国で行われた赤ちゃんへの人体実験です。今では考えられないことですが、親のいない赤ちゃん５０人に対して、養育者が笑いかけもしない目も合わせない、触れることもしないという実験を行ったそうです（ミルクは十分に与えられていました）。どうなったか…悲惨なことに、実験台にされた５０人の赤ちゃん全員が死んでしまったということでした。赤ちゃんにとってのスキンシップはミルク以上に大事な命の源であるがわかります。

コロナ禍によって長いマスク生活が強いられたことに加えて、顔の見えないＳＮＳのやり取りやゲーム機を見ながらのチャット会話…無機質なものに溢れている子どもたちの社会を考えると、とりわけ初等教育（幼稚園や小学校）では、人と人との関わりを大事にしなければいけないと考えさせられます。

本校では、縦割り班による清掃活動や異学年集会、清掃なしの長昼休みなどを活用して、いろいろな仲間とともに時間と空間を共有する時間を大切にしています。しかし、当然のことながら、こうした活動の後にはトラブルが生じます。

生身の人と人との関わりには、失敗がつきものです。子どもの世界には、相手の声を聞いて初めて気づくこと、大人に叱られて初めてわかることがたくさんあります。失敗を繰り返して、子どもたちは人との折り合いのつけ方を学んでいきます。

見守る大人たちに必要なこと…それは、子どもたちの失敗に対して寛容になるということではないでしょうか。

「失敗とは、よりよい方法で再挑戦する素晴らしい機会である（自動車王　ヘンリー・フォード氏）」